

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	大阪教育大学大学院教職実践研究科スクールリーダーシップコース 管理職プログラム（平成31(2019)年4月1日履修証明制度適用）																																							
プログラムの目的	学校現場の教員等のキャリアや学校等の組織課題に即した，総論的・事例的・実習的授業内容により，管理職に必要な資質能力を体系的に養成することを目的としたプログラム																																							
カリキュラム	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>授業・講習の別</th> <th>時間数</th> <th>単位数</th> <th>担当予定教員</th> <th>開講期</th> <th>曜日・時限</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① スクールリーダーのマネジメント</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>田村・佐々木 他</td> <td>前期</td> <td>火 7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 学校組織開発</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>未定</td> <td>集中</td> <td>-</td> <td>注1, 注2</td> </tr> <tr> <td>③ チーム学校の実践的展開</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>未定</td> <td>前期</td> <td>木 6</td> <td>2020年度から開講</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1 平成31年度は8/24(3-6限), 8/25(1-4限)及び12/21(3-5限), 12/22(1-4限)に開講予定。 注2 2020年度以降は木曜日7限目に開講予定。</p>								科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考	① スクールリーダーのマネジメント	授業	22.5時間	2	田村・佐々木 他	前期	火 7		② 学校組織開発	授業	22.5時間	2	未定	集中	-	注1, 注2	③ チーム学校の実践的展開	授業	22.5時間	2	未定	前期	木 6	2020年度から開講
科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考																																	
① スクールリーダーのマネジメント	授業	22.5時間	2	田村・佐々木 他	前期	火 7																																		
② 学校組織開発	授業	22.5時間	2	未定	集中	-	注1, 注2																																	
③ チーム学校の実践的展開	授業	22.5時間	2	未定	前期	木 6	2020年度から開講																																	
授業又は講習の内容及び方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スクールリーダーのマネジメント</td> <td>学校の診断・評価をふまえて学校の戦略を構想し，学校のビジョン・経営計画を作成するマネジメントのあり方を考える。学校づくりのマネジメント・サイクルについて学び，実践方策を考える。学校戦略を支える学校の機能・役割についても基本的な理解を深める。</td> <td>共同 (ティーム・ティーチング)</td> </tr> <tr> <td>学校組織開発</td> <td>主要な学校組織論を理解し，組織実態を分析し，組織開発のあり方を考える。学校づくりの実践事例を取り上げて，組織開発を実践的・理論的に考えていく。さらに，中長期的視点から学校組織の成長・停滞・衰退という発展段階についても検討していく。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>チーム学校の実践的展開</td> <td>教師と他の専門家，学校と学校外組織の連携について，「チームとしての学校」の考え方に基づき，実践的に検討する。特に，外部リソースの確保と活用 その持続的発展について，所属校等の実態分析や改善方策の策定に着手する。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								科目名・講習名	内容	方法	スクールリーダーのマネジメント	学校の診断・評価をふまえて学校の戦略を構想し，学校のビジョン・経営計画を作成するマネジメントのあり方を考える。学校づくりのマネジメント・サイクルについて学び，実践方策を考える。学校戦略を支える学校の機能・役割についても基本的な理解を深める。	共同 (ティーム・ティーチング)	学校組織開発	主要な学校組織論を理解し，組織実態を分析し，組織開発のあり方を考える。学校づくりの実践事例を取り上げて，組織開発を実践的・理論的に考えていく。さらに，中長期的視点から学校組織の成長・停滞・衰退という発展段階についても検討していく。		チーム学校の実践的展開	教師と他の専門家，学校と学校外組織の連携について，「チームとしての学校」の考え方に基づき，実践的に検討する。特に，外部リソースの確保と活用 その持続的発展について，所属校等の実態分析や改善方策の策定に着手する。																					
科目名・講習名	内容	方法																																						
スクールリーダーのマネジメント	学校の診断・評価をふまえて学校の戦略を構想し，学校のビジョン・経営計画を作成するマネジメントのあり方を考える。学校づくりのマネジメント・サイクルについて学び，実践方策を考える。学校戦略を支える学校の機能・役割についても基本的な理解を深める。	共同 (ティーム・ティーチング)																																						
学校組織開発	主要な学校組織論を理解し，組織実態を分析し，組織開発のあり方を考える。学校づくりの実践事例を取り上げて，組織開発を実践的・理論的に考えていく。さらに，中長期的視点から学校組織の成長・停滞・衰退という発展段階についても検討していく。																																							
チーム学校の実践的展開	教師と他の専門家，学校と学校外組織の連携について，「チームとしての学校」の考え方に基づき，実践的に検討する。特に，外部リソースの確保と活用 その持続的発展について，所属校等の実態分析や改善方策の策定に着手する。																																							
総時間数	67.5時間																																							
募集定員	6人程度																																							
受講期間	1年～2年																																							
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科スクールリーダーシッププログラム募集要項に規定する履修資格のとおり																																							
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること（2単位×3＝6単位）																																							
その他	各プログラム科目は①②③の順で履修することが望ましい。																																							

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	大阪教育大学大学院教職実践研究科スクールリーダーシップコース 実践的リーダープログラム (平成31(2019)年4月1日履修証明制度適用)																																						
プログラムの目的	学校現場の教員等のキャリアや学校等の組織課題に即した、総論的・事例的・実習的授業内容により、実践的リーダーに必要な資質能力を体系的に養成することを目的としたプログラム																																						
カリキュラム	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>授業・講習の別</th> <th>時間数</th> <th>単位数</th> <th>担当予定教員</th> <th>開講期</th> <th>曜日・時限</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 学校におけるコーディネーション</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>家近・餅木</td> <td>前期</td> <td>水7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>家近</td> <td>後期</td> <td>水7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 校内研修の持続的発展</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>餅木</td> <td>前期</td> <td>火6</td> <td>2020年度から開講</td> </tr> </tbody> </table>							科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考	① 学校におけるコーディネーション	授業	22.5時間	2	家近・餅木	前期	水7		② 子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	授業	22.5時間	2	家近	後期	水7		③ 校内研修の持続的発展	授業	22.5時間	2	餅木	前期	火6	2020年度から開講
科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考																																
① 学校におけるコーディネーション	授業	22.5時間	2	家近・餅木	前期	水7																																	
② 子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	授業	22.5時間	2	家近	後期	水7																																	
③ 校内研修の持続的発展	授業	22.5時間	2	餅木	前期	火6	2020年度から開講																																
授業又は講習の内容及び方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校におけるコーディネーション</td> <td>学校における教員間の協力や連携について、理論的・実践的に検討する。それらの概念の発展を確認するとともに、その類型や典型事例を考察する。また、その充実に資する実践的リーダーシップ及びコーディネーターの役割について検討することで、「スクールリーダーシップの理論と実践」の内容を深め、学校での具体的な活用方法を考える。</td> <td>共同 (チーム・ティーチング)</td> </tr> <tr> <td>子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開</td> <td>心理社会的発達の視点から、近年の児童生徒の現状と課題および、問題行動等の理解を深め、児童生徒理解とそれに基づく組織的な対応について論議する。教育課題の解決に向けた具体的な対応については、問題をかかえる児童生徒への個別の対応とあわせて、グループアプローチを用いた予防開発的な指導援助について学ぶことができるよう展開する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>校内研修の持続的発展</td> <td>校内研修の企画・運営に関する理論と実践の融合を目指す。まず、わが国の校内研修の特徴や課題について歴史的視点、国際比較の視点をふまえて考察する。また、校内研修の企画・運営に関するモデルに基づき、その手続きを整理する。その際には、モデルを用いた、事例分析にも着手する。最後に、受講者自身がたずさわってきた校内研修を点検・評価する作業、その改善プランを作成する活動を通じて、校内研修の企画・運営に関する学術的知識と実践的知識の統合を図る。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							科目名・講習名	内容	方法	学校におけるコーディネーション	学校における教員間の協力や連携について、理論的・実践的に検討する。それらの概念の発展を確認するとともに、その類型や典型事例を考察する。また、その充実に資する実践的リーダーシップ及びコーディネーターの役割について検討することで、「スクールリーダーシップの理論と実践」の内容を深め、学校での具体的な活用方法を考える。	共同 (チーム・ティーチング)	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	心理社会的発達の視点から、近年の児童生徒の現状と課題および、問題行動等の理解を深め、児童生徒理解とそれに基づく組織的な対応について論議する。教育課題の解決に向けた具体的な対応については、問題をかかえる児童生徒への個別の対応とあわせて、グループアプローチを用いた予防開発的な指導援助について学ぶことができるよう展開する。		校内研修の持続的発展	校内研修の企画・運営に関する理論と実践の融合を目指す。まず、わが国の校内研修の特徴や課題について歴史的視点、国際比較の視点をふまえて考察する。また、校内研修の企画・運営に関するモデルに基づき、その手続きを整理する。その際には、モデルを用いた、事例分析にも着手する。最後に、受講者自身がたずさわってきた校内研修を点検・評価する作業、その改善プランを作成する活動を通じて、校内研修の企画・運営に関する学術的知識と実践的知識の統合を図る。																					
科目名・講習名	内容	方法																																					
学校におけるコーディネーション	学校における教員間の協力や連携について、理論的・実践的に検討する。それらの概念の発展を確認するとともに、その類型や典型事例を考察する。また、その充実に資する実践的リーダーシップ及びコーディネーターの役割について検討することで、「スクールリーダーシップの理論と実践」の内容を深め、学校での具体的な活用方法を考える。	共同 (チーム・ティーチング)																																					
子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	心理社会的発達の視点から、近年の児童生徒の現状と課題および、問題行動等の理解を深め、児童生徒理解とそれに基づく組織的な対応について論議する。教育課題の解決に向けた具体的な対応については、問題をかかえる児童生徒への個別の対応とあわせて、グループアプローチを用いた予防開発的な指導援助について学ぶことができるよう展開する。																																						
校内研修の持続的発展	校内研修の企画・運営に関する理論と実践の融合を目指す。まず、わが国の校内研修の特徴や課題について歴史的視点、国際比較の視点をふまえて考察する。また、校内研修の企画・運営に関するモデルに基づき、その手続きを整理する。その際には、モデルを用いた、事例分析にも着手する。最後に、受講者自身がたずさわってきた校内研修を点検・評価する作業、その改善プランを作成する活動を通じて、校内研修の企画・運営に関する学術的知識と実践的知識の統合を図る。																																						
総時間数	67.5時間																																						
募集定員	6人程度																																						
受講期間	1年～2年																																						
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科スクールリーダーシッププログラム募集要項に規定する履修資格のとおり																																						
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること (2単位×3=6単位)																																						
その他	各プログラム科目は①②③の順で履修することが望ましい。																																						

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	大阪教育大学大学院教職実践研究科スクールリーダーシップコース 教育委員会指導主事プログラム (平成31(2019)年4月1日履修証明制度適用)																																						
プログラムの目的	学校現場の教員等のキャリアや学校等の組織課題に即した、総論的・事例的・実習的授業内容により、教育委員会の指導主事に必要な資質能力を体系的に養成することを目的としたプログラム																																						
カリキュラム	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>授業・講習の別</th> <th>時間数</th> <th>単位数</th> <th>担当予定教員</th> <th>開講期</th> <th>曜日・時限</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 学校に対するコンサルテーション</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>木原・長谷川</td> <td>前期</td> <td>火 6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 行政研修の体系と実践</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>木原</td> <td>後期</td> <td>月 7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 学校支援のための施策展開</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>長谷川</td> <td>前期</td> <td>水 7</td> <td>2020年度から開講</td> </tr> </tbody> </table>							科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考	① 学校に対するコンサルテーション	授業	22.5時間	2	木原・長谷川	前期	火 6		② 行政研修の体系と実践	授業	22.5時間	2	木原	後期	月 7		③ 学校支援のための施策展開	授業	22.5時間	2	長谷川	前期	水 7	2020年度から開講
科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考																																
① 学校に対するコンサルテーション	授業	22.5時間	2	木原・長谷川	前期	火 6																																	
② 行政研修の体系と実践	授業	22.5時間	2	木原	後期	月 7																																	
③ 学校支援のための施策展開	授業	22.5時間	2	長谷川	前期	水 7	2020年度から開講																																
授業又は講習の内容及び方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校に対するコンサルテーション</td> <td>本講義では、学校に対して外部から助言を繰り広げる(コンサルテーション)ための視点と方法の会得を目指す。コンサルテーションの概念を整理するとともに、そのモデルを会得する。次いで、コンサルテーションの実際について事例研究に取り組む。さらに、ある学校で実際に営まれている校内研修について、その改善プランを策定する活動を展開する。</td> <td>共同 (ティーム・ティーチング)</td> </tr> <tr> <td>行政研修の体系と実践</td> <td>教育センター等で営まれている行政研修について、まず、文献や各種資料を参照して、その体系や実施上の手続き及び制約(予算、施設設備、参加者等)を整理する。その後、行政研修の事例を題材にして、その特徴と課題を多角度で分析する。そして、それらによって得られた行政研修の企画・運営に関する知見をもとに、受講者が協働して行政研修のプランニングに取り組む。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学校支援のための施策展開</td> <td>各教育委員会が学校支援のためにどのような事業を企画・運営しているか、その動向を整理する。また、いくつかの施策を取り上げて、その背景や経緯をまとめるとともに、その特徴と課題を明らかにする。さらに、大阪における学校支援のために必要な施策を構想する。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							科目名・講習名	内容	方法	学校に対するコンサルテーション	本講義では、学校に対して外部から助言を繰り広げる(コンサルテーション)ための視点と方法の会得を目指す。コンサルテーションの概念を整理するとともに、そのモデルを会得する。次いで、コンサルテーションの実際について事例研究に取り組む。さらに、ある学校で実際に営まれている校内研修について、その改善プランを策定する活動を展開する。	共同 (ティーム・ティーチング)	行政研修の体系と実践	教育センター等で営まれている行政研修について、まず、文献や各種資料を参照して、その体系や実施上の手続き及び制約(予算、施設設備、参加者等)を整理する。その後、行政研修の事例を題材にして、その特徴と課題を多角度で分析する。そして、それらによって得られた行政研修の企画・運営に関する知見をもとに、受講者が協働して行政研修のプランニングに取り組む。		学校支援のための施策展開	各教育委員会が学校支援のためにどのような事業を企画・運営しているか、その動向を整理する。また、いくつかの施策を取り上げて、その背景や経緯をまとめるとともに、その特徴と課題を明らかにする。さらに、大阪における学校支援のために必要な施策を構想する。																					
科目名・講習名	内容	方法																																					
学校に対するコンサルテーション	本講義では、学校に対して外部から助言を繰り広げる(コンサルテーション)ための視点と方法の会得を目指す。コンサルテーションの概念を整理するとともに、そのモデルを会得する。次いで、コンサルテーションの実際について事例研究に取り組む。さらに、ある学校で実際に営まれている校内研修について、その改善プランを策定する活動を展開する。	共同 (ティーム・ティーチング)																																					
行政研修の体系と実践	教育センター等で営まれている行政研修について、まず、文献や各種資料を参照して、その体系や実施上の手続き及び制約(予算、施設設備、参加者等)を整理する。その後、行政研修の事例を題材にして、その特徴と課題を多角度で分析する。そして、それらによって得られた行政研修の企画・運営に関する知見をもとに、受講者が協働して行政研修のプランニングに取り組む。																																						
学校支援のための施策展開	各教育委員会が学校支援のためにどのような事業を企画・運営しているか、その動向を整理する。また、いくつかの施策を取り上げて、その背景や経緯をまとめるとともに、その特徴と課題を明らかにする。さらに、大阪における学校支援のために必要な施策を構想する。																																						
総時間数	67.5時間																																						
募集定員	6人程度																																						
受講期間	1年～2年																																						
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科スクールリーダーシッププログラム募集要項に規定する履修資格のとおり																																						
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること(2単位×3=6単位)																																						
その他	各プログラム科目は①②③の順で履修することが望ましい。																																						

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	大阪教育大学大学院教職実践研究科スクールリーダーシップコース グローバルスクールプログラム (平成31(2019)年4月1日履修証明制度適用)																																						
プログラムの目的	学校現場の教員等のキャリアや学校等の組織課題に即した、総論的・事例的・実習的授業内容により、グローバルスクール・リーダーに必要な資質能力を体系的に養成することを目的としたプログラム																																						
カリキュラム	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>授業・講習の別</th> <th>時間数</th> <th>単位数</th> <th>担当予定教員</th> <th>開講期</th> <th>曜日・時限</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① グローバル時代の教師</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>柏木・田中満</td> <td>後期</td> <td>水 6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② グローバルリテラシーの育成</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>柏木</td> <td>後期</td> <td>木 6</td> <td>注1</td> </tr> <tr> <td>③ グローバルプログラムの開発</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>田中満</td> <td>前期</td> <td>火 6</td> <td>2020年度から開講 注2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1, 注2 演習は基本的には指定の講義において行うが、それ以外の時間帯や場所で演習することも想定される。</p>							科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考	① グローバル時代の教師	授業	22.5時間	2	柏木・田中満	後期	水 6		② グローバルリテラシーの育成	授業	22.5時間	2	柏木	後期	木 6	注1	③ グローバルプログラムの開発	授業	22.5時間	2	田中満	前期	火 6	2020年度から開講 注2
科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考																																
① グローバル時代の教師	授業	22.5時間	2	柏木・田中満	後期	水 6																																	
② グローバルリテラシーの育成	授業	22.5時間	2	柏木	後期	木 6	注1																																
③ グローバルプログラムの開発	授業	22.5時間	2	田中満	前期	火 6	2020年度から開講 注2																																
授業又は講習の内容及び方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グローバル時代の教師</td> <td>グローバルスクール・リーダーとして理論知と実践知を獲得するため、(1) 国際社会の動向と世界のグローバル教育、(2) グローバル教育の概念、プログラムとその評価、(3) 国際バカロレア、ユネスコスクール、SGH指定校のカリキュラムや運営についてについて考察、(4) 国内外の文献・データを収集し批判的に分析する。その上で、「グローバル教師21世紀型スキル育成」の指標を作成する。</td> <td>共同 (ティーム・ティーチング)</td> </tr> <tr> <td>グローバルリテラシーの育成</td> <td>異文化理解プログラムやグローバル教育を牽引する教師としての資質やスキルを身に付ける。(1) 国内外のPIISA型学力の文献やデータの分析、(2) 英語等をもちいた幅広い表現力、ディスカッション、(3) 異教科・異専門連携のCLIL授業・国際バカロレアWS方法について学び、コキアム運営を計画する。演習全体の自己省察と他者変容について量的・質的研究を行う。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>グローバルプログラムの開発</td> <td>グローバルマインド育成プログラムを企画・運営できる教員を育成する。「グローバルマインドの育成」の指標を実際に活用し、アジア等の海外教育機関と連携したグローバルマインド育成プログラムの協働開発を行う。実際に現地でのインタビューや授業実践を行う等、21世紀の地球上でおこる教育問題や貧困問題などの課題を解決するプログラムデザインを開発し実行する。これらプログラム開発全体の可能性や効果について、質的研究法を用いて実証的に省察する。自治体教育委員会などとの成果共有を行う。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							科目名・講習名	内容	方法	グローバル時代の教師	グローバルスクール・リーダーとして理論知と実践知を獲得するため、(1) 国際社会の動向と世界のグローバル教育、(2) グローバル教育の概念、プログラムとその評価、(3) 国際バカロレア、ユネスコスクール、SGH指定校のカリキュラムや運営についてについて考察、(4) 国内外の文献・データを収集し批判的に分析する。その上で、「グローバル教師21世紀型スキル育成」の指標を作成する。	共同 (ティーム・ティーチング)	グローバルリテラシーの育成	異文化理解プログラムやグローバル教育を牽引する教師としての資質やスキルを身に付ける。(1) 国内外のPIISA型学力の文献やデータの分析、(2) 英語等をもちいた幅広い表現力、ディスカッション、(3) 異教科・異専門連携のCLIL授業・国際バカロレアWS方法について学び、コキアム運営を計画する。演習全体の自己省察と他者変容について量的・質的研究を行う。		グローバルプログラムの開発	グローバルマインド育成プログラムを企画・運営できる教員を育成する。「グローバルマインドの育成」の指標を実際に活用し、アジア等の海外教育機関と連携したグローバルマインド育成プログラムの協働開発を行う。実際に現地でのインタビューや授業実践を行う等、21世紀の地球上でおこる教育問題や貧困問題などの課題を解決するプログラムデザインを開発し実行する。これらプログラム開発全体の可能性や効果について、質的研究法を用いて実証的に省察する。自治体教育委員会などとの成果共有を行う。																					
科目名・講習名	内容	方法																																					
グローバル時代の教師	グローバルスクール・リーダーとして理論知と実践知を獲得するため、(1) 国際社会の動向と世界のグローバル教育、(2) グローバル教育の概念、プログラムとその評価、(3) 国際バカロレア、ユネスコスクール、SGH指定校のカリキュラムや運営についてについて考察、(4) 国内外の文献・データを収集し批判的に分析する。その上で、「グローバル教師21世紀型スキル育成」の指標を作成する。	共同 (ティーム・ティーチング)																																					
グローバルリテラシーの育成	異文化理解プログラムやグローバル教育を牽引する教師としての資質やスキルを身に付ける。(1) 国内外のPIISA型学力の文献やデータの分析、(2) 英語等をもちいた幅広い表現力、ディスカッション、(3) 異教科・異専門連携のCLIL授業・国際バカロレアWS方法について学び、コキアム運営を計画する。演習全体の自己省察と他者変容について量的・質的研究を行う。																																						
グローバルプログラムの開発	グローバルマインド育成プログラムを企画・運営できる教員を育成する。「グローバルマインドの育成」の指標を実際に活用し、アジア等の海外教育機関と連携したグローバルマインド育成プログラムの協働開発を行う。実際に現地でのインタビューや授業実践を行う等、21世紀の地球上でおこる教育問題や貧困問題などの課題を解決するプログラムデザインを開発し実行する。これらプログラム開発全体の可能性や効果について、質的研究法を用いて実証的に省察する。自治体教育委員会などとの成果共有を行う。																																						
総時間数	67.5時間																																						
募集定員	6人程度																																						
受講期間	1年～2年																																						
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科スクールリーダーシッププログラム募集要項に規定する履修資格のとおり																																						
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること (2単位×3=6単位)																																						
その他	各プログラム科目は①②③の順で履修することが望ましい。 別途、希望者には海外渡航費が必要な場合がある。																																						

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	大阪教育大学大学院教職実践研究科スクールリーダーシップコース メディア・情報リテラシー教育プログラム (平成31(2019)年4月1日履修証明制度適用)																																						
プログラムの目的	学校現場の教員等のキャリアや学校等の組織課題に即した、総論的・事例的・実習的授業内容により、メディア・情報リテラシー教育プログラムをリードしようとする教員に必要な資質能力を体系的に養成することを目的としたプログラム																																						
カリキュラム	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>授業・講習の別</th> <th>時間数</th> <th>単位数</th> <th>担当予定教員</th> <th>開講期</th> <th>曜日・時限</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 授業におけるICT活用の理論と実際</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>寺嶋他</td> <td>集中</td> <td>-</td> <td>注1, 注2</td> </tr> <tr> <td>② メディア・情報リテラシー教育の実践的展開</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>寺嶋他</td> <td>後期</td> <td>月6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ メディア・情報教育の企画・運営</td> <td>授業</td> <td>22.5時間</td> <td>2</td> <td>寺嶋</td> <td>前期</td> <td>木7</td> <td>2020年度から開講</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1 平成31年度は6/28(7限), 8/2(終日), 8/6(終日), 8/19(終日), 9/19(7限)に開講予定。また、大阪市教育委員会と連携して開講するので、大阪市教育センター等で授業を実施する場合がある。</p> <p>注2 大阪市教育委員会と大阪教育大学との連携研修「学校教育ICT推進リーダー」養成プログラムとしての受講を希望する者は、連携研修への申請が必要。その際、科目等履修としての受講手続きも同時に行うこと。なお、連携研修の日程は、上記注1とは一部異なるため、連携研修募集要項を確認すること。</p>							科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考	① 授業におけるICT活用の理論と実際	授業	22.5時間	2	寺嶋他	集中	-	注1, 注2	② メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	授業	22.5時間	2	寺嶋他	後期	月6		③ メディア・情報教育の企画・運営	授業	22.5時間	2	寺嶋	前期	木7	2020年度から開講
科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考																																
① 授業におけるICT活用の理論と実際	授業	22.5時間	2	寺嶋他	集中	-	注1, 注2																																
② メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	授業	22.5時間	2	寺嶋他	後期	月6																																	
③ メディア・情報教育の企画・運営	授業	22.5時間	2	寺嶋	前期	木7	2020年度から開講																																
授業又は講習の内容及び方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名・講習名</th> <th>内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業におけるICT活用の理論と実際</td> <td>学校現場のタブレット端末を中心とするICT機器の導入は、近年予想をはるかに超えて急速に進んでおり、教員自身の活用能力の習得と授業実践における活用の両面で喫緊の課題となっている。本講義は、「ICT活用の授業研究」をテーマにして、政策の最新動向、カリキュラムや実践の最新動向を、諸外国や研究開発学校の事例を例にして理論的実践的に研究した上で、授業者としてのICT活用の資質を実践的に習得することを目的とする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>メディア・情報リテラシー教育の実践的展開</td> <td>ユネスコはMedia and Information Literacy (MIL) の概念を打ち出し、従来メディアごとに構想されていたリテラシー教育を融合させる必要と、その具体的習得プログラムを、教師教育用に提唱している。本講義では、こうした世界的動向に立脚して、これからの教員が保持すべきMILを、理論的、体験的に学び、児童・生徒の指導に活かす基礎的資質として、あわせて新学習指導要領を展開に資する資質として習得することを旨とする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>メディア・情報教育の企画・運営</td> <td>本講義では、「授業におけるICT活用の理論と実際」および「メディア・情報リテラシー教育の実践的展開」で習得した内容を、校内研修や教育センターの研修を通して、他の教員に習得してもらうために必要な研修デザイン、ファシリテーション手法を学ぶことを目的とする。そのために、実際の研修を企画・実施・評価するといった実際的なないし模擬的な研修体験を組み込み、受講後には研修担当者として活動できる程度の資質・能力を育成する。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							科目名・講習名	内容	方法	授業におけるICT活用の理論と実際	学校現場のタブレット端末を中心とするICT機器の導入は、近年予想をはるかに超えて急速に進んでおり、教員自身の活用能力の習得と授業実践における活用の両面で喫緊の課題となっている。本講義は、「ICT活用の授業研究」をテーマにして、政策の最新動向、カリキュラムや実践の最新動向を、諸外国や研究開発学校の事例を例にして理論的実践的に研究した上で、授業者としてのICT活用の資質を実践的に習得することを目的とする。		メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	ユネスコはMedia and Information Literacy (MIL) の概念を打ち出し、従来メディアごとに構想されていたリテラシー教育を融合させる必要と、その具体的習得プログラムを、教師教育用に提唱している。本講義では、こうした世界的動向に立脚して、これからの教員が保持すべきMILを、理論的、体験的に学び、児童・生徒の指導に活かす基礎的資質として、あわせて新学習指導要領を展開に資する資質として習得することを旨とする。		メディア・情報教育の企画・運営	本講義では、「授業におけるICT活用の理論と実際」および「メディア・情報リテラシー教育の実践的展開」で習得した内容を、校内研修や教育センターの研修を通して、他の教員に習得してもらうために必要な研修デザイン、ファシリテーション手法を学ぶことを目的とする。そのために、実際の研修を企画・実施・評価するといった実際的なないし模擬的な研修体験を組み込み、受講後には研修担当者として活動できる程度の資質・能力を育成する。																					
科目名・講習名	内容	方法																																					
授業におけるICT活用の理論と実際	学校現場のタブレット端末を中心とするICT機器の導入は、近年予想をはるかに超えて急速に進んでおり、教員自身の活用能力の習得と授業実践における活用の両面で喫緊の課題となっている。本講義は、「ICT活用の授業研究」をテーマにして、政策の最新動向、カリキュラムや実践の最新動向を、諸外国や研究開発学校の事例を例にして理論的実践的に研究した上で、授業者としてのICT活用の資質を実践的に習得することを目的とする。																																						
メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	ユネスコはMedia and Information Literacy (MIL) の概念を打ち出し、従来メディアごとに構想されていたリテラシー教育を融合させる必要と、その具体的習得プログラムを、教師教育用に提唱している。本講義では、こうした世界的動向に立脚して、これからの教員が保持すべきMILを、理論的、体験的に学び、児童・生徒の指導に活かす基礎的資質として、あわせて新学習指導要領を展開に資する資質として習得することを旨とする。																																						
メディア・情報教育の企画・運営	本講義では、「授業におけるICT活用の理論と実際」および「メディア・情報リテラシー教育の実践的展開」で習得した内容を、校内研修や教育センターの研修を通して、他の教員に習得してもらうために必要な研修デザイン、ファシリテーション手法を学ぶことを目的とする。そのために、実際の研修を企画・実施・評価するといった実際的なないし模擬的な研修体験を組み込み、受講後には研修担当者として活動できる程度の資質・能力を育成する。																																						
総時間数	67.5時間																																						
募集定員	6人程度																																						
受講期間	1年～2年																																						
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科スクールリーダーシッププログラム募集要項に規定する履修資格のとおり																																						
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること (2単位×3=6単位)																																						
その他	各プログラム科目は①②③の順で履修することが望ましい。																																						